

2021.2.28

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和3年3月2日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児

《2月のおはなし会で使った本》

『もりのおふろ』（大型絵本） 西村敏雄/さく 福音館書店 2010

『おには一そと!』（紙芝居）すぎのこ保育園/脚本 童心社 2007

『だるまさんが』（大型絵本）かがくいひろし/さく ブロンズ新社 2010

『かくれんぼ』（紙芝居）瀬名恵子/脚本・画 童心社 1983

当館でのおはなし会のプログラムと関連する絵本を、ホームページ上でも紹介します。おうちでもおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『カシャッ!』 北村人/作 ポプラ社 2021.1 ¥1000

写真をとるよ!「バナナさーん わらって わらって」「はいっ チーズ!」「カシャ!」いいお顔! スイカさん、たまごさん、おまめさん、パンさん、みんなにカメラを向けると、みんなみんないいお顔。撮ってる僕もいろんなポーズではいチーズ! 牛乳こぼしてしょんぼりしても、ママにカメラを向けられると、僕だっていいお顔! ポップな色遣いで、読めばにっこり、の楽しい絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『うしとざん』 高島那生/作 小学館 2020.12 ¥1400

「きょうはこれからうしにのぼります。」たくさん牛のなかで、登りやすいのは、半分寝ているような牛。そっと近づいて、前足の短い毛をつかんでさげゅ! つかんでさげゅ! と登っていく。なぜ登るのかって? そんなこと聞いちゃあいけません。広い牛の背中には何があるのかな? それは登った人にしかわからない。なんともとぼけた、ナンセンスなユーモアが溢れる絵本。

『みたらみられた』 たけがみたえ/作 アリス館 2021.1 ¥1500

桜の花びらの舞い散るある晴れた日、屋根の上を歩いている猫をみていたら、こっちをみられた。チューリップ畑で虫を狙うかまきりをみていたら、こっちをみられた。牧場でのおんぼり草を食む牛たちをみていたら、こっちをみられた! 色々な生き物たちと目が合った瞬間を切り取りクローズアップ。四季折々のその表情を独特のセンスとユーモアで描いた、思わず笑ってしまう版画絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『くつしたどろぼう』 さはらゆうき/ぶん もりのみさこ/え マイルスタッフ 2020.12 ¥1400

「あれー? ぼくのくつした かたほうしかない」子供のいる家で必ず起こるこの不思議な現象。それは家のすみっこで暮らしているもののしわざ。大きさ10センチほどの彼らは、靴下を片方だけ盗む。床に二つも落ちているから、一つくらいいいかなと思っっているらしい。ちょっと寒がりな彼らの、盗んだ靴下の使い道は…。いたずらで可愛い靴下どろぼうのおはなし。

『とっています』 市原淳/作 世界文化ワンダークリエイト 2021.1 ¥1100

お相撲さんが、相撲を「とっています」。相撲をとりながら、蝶々を「とっています」。蝶々をとりながら、足を「とっています」。足をとりながら、バランスを「とっています」。休憩をとりながら、ピザも「とっています」。土俵の中でお相撲さんがいるんなら「とっています」を紹介。お相撲さんのとぼけた雰囲気と表情が楽しい、同音異義語こだじやれも加わった言葉遊び絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『おさるちゃんのおしごと』 榎朋巳/作 小学館 2021.1 ¥1400

整骨院で働いているおさるちゃん。月に一度山に帰り、山の仲間をマッサージするのを楽しみにしている。おさるちゃんの夢は、いつか山で整骨院を開くこと。今日も、ひざを悪くしたおさるのおばあちゃんや首を痛めたイノシシのおじいちゃん、次から次へといろいろな症状の患者さんがやってきて…。優しいおさるちゃんと手伝いの犬のパロに心癒される、ほのぼの絵本。

『せかいでさいしょにズボンをはいせ女の子』 キース・ネグレー/作 石井睦美/訳 光村教育図書 2020.12 ¥1500

昔、女の子はズボンをはいてはいけなかった。みんなは疑問に思わなかったが、メアリーは、おかしいと思っていた。ズボンをはいて町に出かけたメアリーに、みんなは冷ややかだった。ある日、ズボンをはいて学校に行く…。当時の社会の常識に疑問を投げかけ、道を切り開いたメアリー・ウォーカー。幼い日のメアリーの、独立心と勇氣に溢れたお話。コラージュのような絵も可愛い。

<絵本-小学校中学年から>

『なまはげ』 池田まき子/文 早川純子/絵 汐文社 2020.12 ¥1800

なまはげは、秋田県男鹿半島の伝統行事。毎年大晦日の夜、「泣く子はいねが〜」「なまげ者はいねが〜」と鬼が家々をめぐる。なまはげにまつわる伝説はいくつか残されているが、この絵本では、「古代中国の漢の武帝が、五ひきの鬼をつれてやってきた」という伝説をもとに、迫力ある版画で描かれている。ユネスコの無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」の由来がわかる一冊。

『会いたくて会いたくて』 室井滋/作 長谷川義史/絵 小学館 2021.2 ¥1200

ひまわりホームにいるおばあちゃんに、ぼくはお花を持って会いに行く。でもホームの人に「今はお見まいできないの」って言われた。ぼくは心配。ある日、おばあちゃんのアプローチで、糸電話を使って話すことができた。会えない時間がその人への思いを強くさせるんだ

よ、とおばあちゃんは言う。大切な人を想うぼくの気持ちがか心に沁み、温かく優しい色彩で描かれた、日記形式の絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『うさぎのモニカのケーキ屋さん』 小手鞠いさく たかすかずみ/え 講談社 2021.1 ¥1300

うさぎのモニカのケーキ屋さんにやって来る、木こりのくまのダニエルさん。耳が遠くて話すこともできないが、いつも一番奥のテーブルの前に腰を下ろし、静かに座っている。ある日の午後、いつもやってくるダニエルさんが、熱を出していることを知ったモニカやお客のりすの三人兄弟は、ダニエルさんにくるみのケーキを作って届けることに。お話しにぴったりな温かい挿絵の作品。

『リンゴちゃんのいえで』 角野栄子/作 長崎訓子/絵 ポプラ社 2021.1 ¥1000

マイちゃんとお人形のリンゴちゃん。いつもは仲良しな二人だけど、けんかをしたリンゴちゃんは家出した。おんおん泣きながら途中で出会ったタンポポやイヌと散歩を続けているうちに、たどり着いたのはミカンやまのおばあちゃんち。マイちゃんに会いたくなったリンゴちゃんは、おばあちゃんちを飛び出して…。「リンゴちゃんシリーズ」4作品目。

<読み物—小学校中学年から>

『ひかりの森のフクロウ』 広瀬寿子/作 すがわらけいこ/絵 国土社 2020.10 ¥1400

両親の再婚で兄弟となった哲と兄は、近くの通称「フクロウ森」を題材に絵本を作って楽しんでた。しかし、哲が小4の夏休みに両親は離婚し兄とは離れ離れに。一人でフクロウ森に来た哲は、そこに建つ古い家を修理していた文平さんに出会う。昔その家に住んでいたという文平さんの、悲しい出来事を知った哲は、絵本と文平さんの思いを重ねる。「ひかりの森」の描写が美しいお話。

<読み物—小学校高学年から>

『トップラン』 つげみさお/作 森川泉/絵 国土社 2020.10 ¥1400

誰でも速く走れるという運動靴「トップラン」。徒競走でいつもビリの小5の航平は、買ってもらった約束で夏休みにランニングを始めた。コースの途中で出会った、老人施設のおばあさんと話をしたり、職員のお姉さんにランニングフォームを教わったりするようになり、思いがけず「トップラン」を手に入れた航平だったが…。航平や周囲の人々の温かい気持ちがあふれる作品。

『みんなはアイスをはなめている』 安田夏菜/作 黒須高嶺/絵 講談社 2020.12 ¥1350

毎日、500円1枚で妹と二人分の夕食を買う小6の陸。忙しく介護の仕事をする母は、妹の誕生日さえも忘れてしまう。陸は、歯を痛がる妹を歯医者に連れて行き、500円しかないことを告げて治療を受けさせる。飢えて病気になったり、死んだりはいらないが、命さえあったらそれで幸せなんだろうか。物語を通して、SDGsのことを分かりやすく伝える「シリーズおはなしSDGs」。

<読み物—中学生から>

『陰陽師東海寺迦楼羅の事件簿 1』 石崎洋司/著 亜沙美/絵 講談社 2020.11 ¥1300

流れ者の極道・麻倉豪太郎と陰陽師・東海寺迦楼羅（かるら）の運命的な出会い。2人は「人体自然発火現象」の謎を追い、香川県から京都へ。次第に明らかになる行方不明の迦楼羅の父、妹にまつわる秘密。結界や呪詛返し、透視など、陰陽師の技が繰り広げられる。昭和30年頃を舞台にした、18歳コンビのちょっとレトロで、時々ビブリアチックなオカルト冒険譚シリーズの幕開け。

『ダリウスは今日も生きづらい』 アディーブ・コラーム/著 三辺律子/訳 集英社 2020.12 ¥2400

白人の父とペルシア人の母をもつアメリカの高校2年生・ダリウス。いじめ、父との関係、鬱病と、多くの問題を抱えた彼が、家族で初めて母の故郷イランを訪れる。愛情豊かな祖父母や親戚、イランの伝統的な風習の中で、親友と言える友に出会い、アイデンティティを確立していく様子が丁寧に描かれる。自身も鬱病を患う著者のデビュー作。2019年ウィリアム・C・モリス賞受賞。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ゆらゆらくるくる ゆれる・まわるおもちゃ』 まるばやしさわこ/工作監修・製作 新日本出版社 2021.1 ¥2900

お菓子の箱で作る「ふりふり赤ずきん」、トイレットペーパーの芯とペットボトルのキャップで作る「あやつり人形」等、身近な材料で作れる「ゆれる・まわるおもちゃ」を紹介。実物大の型紙つき。巻末で「作り方の説明」の文章の書き方も解説。2学年国語科「おもちゃの作り方をせつめいしよう」で活用できる。「うごくおもちゃをつくってみよう！」シリーズ全3巻。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『こどものための防災教室 防災グッズがわかる本』 今泉マユ子/著 理論社 2021.1 ¥3800

いつ起こるか分からない災害に備えて、是非準備しておきたい防災グッズ。避難時に身を守るためのグッズや、水・トイレ・衛生用品・食料など生活に必要な日用品を紹介。実物の写真で、使い方や長所短所、購入方法や保管場所等を掲載。感染症対策で更なる備えの必要も提案。『災害食がわかる本』、『身の守りかたがわかる本』に続く「こどものための防災教室」シリーズ3巻目。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『食卓からSDGsをかんがえよう! 3食育でSDGsが見えてくる』 稲葉茂勝/著 服部幸應/監修 岩崎書店 2021.1 ¥3200

日本人の食生活の変化、世界にほこる日本の文化、地球温暖化対策の3つのテーマを取り上げ、山田くんちの家族を描いた絵本形式の導入ページから、写真や図を使った解説ページへ展開する構成。食べ物や、食べ物に関係する人々について考えながらSDGsを理解するシリーズ。他に、『1食卓からかんがえる「人類の目標」』、『2食品をつくる責任、消費する責任』の全3巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『コロナの時代を生きるためのファクトチェック』 立岩陽一郎/著 講談社 2020.12 ¥1300

情報の真偽を確認する「ファクトチェック」の専門家が、コロナウイルスに関して流れた情報をファクトチェックした作業工程を紹介することによって、情報を鵜呑みにせず、いったん立ち止まってできる限り事実関係を調べる習慣を付けようと呼びかける。著名人のSNSのツイート、大統領や総理大臣の発言、TVでの識者の発言、海外発の日本に関するニュースなどを取り上げる。

<研究書>

『世界で読み継がれる子どもの本100』 コリン・ソルター/著 金原瑞人、安納令奈/訳 原書房 2020.10 ¥2800

イギリスの出版社のスタッフが子どもの頃に読んだ本のリストを基に、古典的作品から現代の作家の作品まで、将来に残したい本、後代に影響を与えた本など、幼児絵本からYA小説まで選りすぐりの100冊を出版年順で紹介。初版の書影や挿絵などカラー図版を豊富に使ったビジュアルな作りで、英語圏で大人気のライターによる紹介文には多くの情報が簡潔にまとめられている。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。